

令和 7 年度 一般選抜 B 日程 数学問題

問題 1 次の計算をなさい。

$$(1) \quad \frac{1}{5} + \frac{1}{8}$$

$$(2) \quad 8 - (-6) + (-5)$$

$$(3) \quad 0.212 + 0.981 - 0.851$$

$$(4) \quad \sqrt{15} \div \sqrt{\frac{5}{3}}$$

$$(5) \quad \sin 30^\circ + \cos 45^\circ + \tan 45^\circ$$

問題 2 次の方程式を解きなさい。

$$(1) \quad 2X - 2.4 = 1.7X$$

$$(2) \quad \begin{cases} 8X - 3Y = 7 \\ 2.5X - 1.5Y = 5 \end{cases}$$

$$(3) \quad X^2 - 2X - 3 = 0$$

$$(4) \quad 4X^2 + 3X - 40 = 0$$

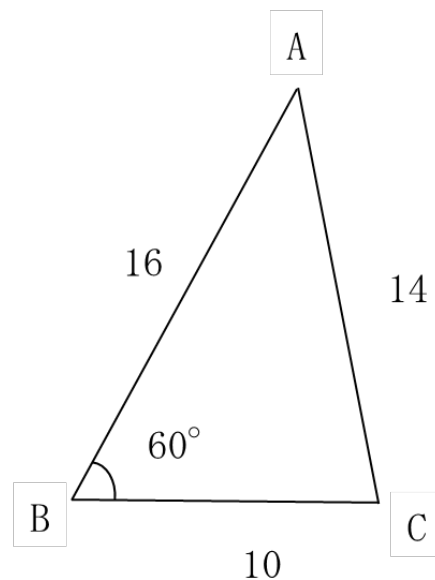
$$(5) \quad 2X^2 + 5X + 1 = 0$$

問題3 2次関数 $y = -2x^2 - 8x - 5$ のグラフについて、次の問いに答えなさい。

- (1) 頂点の座標を求めなさい。
- (2) 軸の方程式を求めなさい。
- (3) y 軸との交点の座標を求めなさい。
- (4) グラフを書きなさい。

問題4 三角形ABCについて次の値を答えなさい。

- (1) $\sin B$
- (2) 三角形ABCの面積



問題5 次の命題を、その対偶が真であることを示して証明しなさい。

- (1) $x^2 \neq 4$ ならば、 $x \neq 2$
- (2) $a + b < 5$ ならば、 $a < 2$ または $b < 3$

問題6 $U = \{x \mid x \text{は一桁の自然数}\}$ を全体集合とする。

U の部分集合 $A = \{2, 3, 4, 8\}$ $B = \{4, 6, 7\}$ $C = \{3, 4, 6, 9\}$
について、次の集合を求めなさい。

(1) $A \cup B$

(2) $A \cap B$

(3) $A \cap B$

(4) $A \cap B \cap C$

(5) $A \cup B \cup C$

問題7 靴屋さんで1日で売れたある靴のデータをとると以下のようになった。
最大値、最小値、平均値、最頻値、中央値を求めなさい。

靴のサイズ (cm)	度数 (足)
24.0	2
24.5	3
25.0	6
25.5	6
26.0	7
26.5	4
27.0	1
27.5	0

令和7年度 一般選抜B日程 数学解答

受験番号

問題1 解答欄 25点 (5点×5)

(1)	(2)	(3)	(4)
$\frac{13}{40}$	9	0.342	3
(5)			
$\frac{3 + 2\sqrt{2}}{2}$			

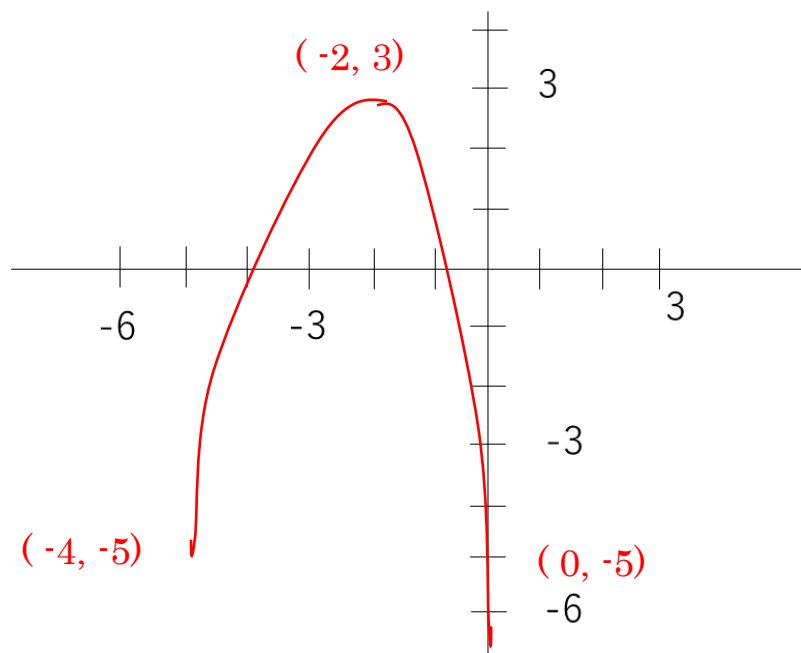
問題2 解答欄 25点 (5点×5)

(1)	(2)		(3)
x= 8	x= -1	y= -5	x= -1, 3
(4)	(5)		
x= $\frac{-3 \pm \sqrt{649}}{8}$	x= $\frac{-5 \pm \sqrt{17}}{4}$		

問題3 解答欄 10点 ((1) ~ (3) 2点×3, (4) 4点)

(1)	(2)	(3)
(-2, 3)	x = -2	(0, -5)

(4)



問題4 解答欄 10点 (5点×2)

(1)	(2)
$\sqrt{3}/2$	$40\sqrt{3}$

問題5 解答欄 10点 (5点×2)

(1)	対偶は「 $X = 2$ ならば $X^2 = 4$ 」 これは明らかに真
-----	---------------------------------------

(2)	対偶は「 $a \geq 2$ かつ $b \geq 3$ ならば $a+b \geq 5$ 」これも明らかに真
-----	--

問題6 解答欄 10点 (2点×5)

(1)	(2)	(3)
$\{1, 5, 9\}$	$\{1, 2, 3, 5, 6, 7, 8, 9\}$	$\{6, 7\}$
(4)	(5)	
$\{4\}$	$\{2, 3, 4, 6, 7, 8, 9\}$	

問題7 解答欄 10点 (2点×5)

最小値	24.5
最大値	27.0
平均値	25.5
最頻値	26.0
中央値	25.5

令和七年度一般選抜B日程国語問題

第一問 次の文章は、芥川龍之介の「春の夜」である。これを読み、後の問いに答えなさい。

1 これは近頃Nさんと云う看護婦に聞いた話である。Nさんは中々、利かぬ氣らしい。いつも乾いた唇のかげに鋭い犬齒の見える人である。

2 僕は当時僕の弟の転地先の宿屋の二階に大腸カタルを起して横になっていた。下痢は一週間たつてもとまる氣色^{けしき}は無い。そこで元来は弟のためにそこに来ていたNさんに厄介をかけることになったのである。

3 ある ^ア五月雨のふり続いた午後、Nさんは雪平（鍋）に粥を煮ながら、いかにも無造作にその話をした。

×

×

×

4 ある年の春、Nさんはある看護婦会から牛込^{うしごめ}の野田と云う家へ行くことになった。野田と云う家には男主人はいない。切り髪にした女隠居が一人、⁽¹⁾ヨメ入り前の娘が一人、そのまた娘の弟が一人、――あとは女中がいるばかりである。Nさんはこの家へ行った時、^(a)何か妙に氣の滅入るのを感じた。それは一つには姉も弟も肺結核に罹^{かか}っていたためであろう。けれどもまた一つには四畳半の離れの抱えこんだ、飛び石一つ打ってない庭に木賊^{とくさ}ばかり茂っていたためである。実際そのおびただしい木賊はNさんの言葉に従えば、「胡麻竹^{ごまたけ}を打った濡れ縁さえ突き上げるように」茂っていた。

5 女隠居は娘を雪さんと呼び、息子だけは清太郎と呼び捨てにしていた。雪さんは氣の勝った女だったと見え、熱の高低を計るのにさえ、Nさんの見たのでは承知せずにいちいち検温器を透かして見たそうである。清太郎は雪さんとは反対にNさんに世話を焼かせたことはない。何でも言うなりになるばかりか、Nさんにもものを言う時には顔を赤めたりするくらいである。女隠居はこう云う清太郎よりも雪さんを大事にしていたらしい。そのくせ病氣の重いのは雪さんよりもむしろ清太郎だった。

「あたしはそんな意気地なしに育てた覚えはないんだがね。」

6 女隠居は離れへ来る度に（清太郎は離れに床に就いていた。）いつもつけつけと口小言^{くちご}を言った。が、二十一になる清太郎は⁽²⁾メツタに口答えもしたこともない。

^A 仰向けになったまま、たいていはじっと目を閉じている。そのまた顔も透きとおるように白い。Nさんは氷囊^{ひょうのう}を取り換えながら、時々その頬のあたりに庭一杯の木賊の影が映るように感じたと言ふことである。

7 ある晩の十時前に、Nさんはこの家から二三町離れた、灯の多い町へ氷を買いに行った。その帰りに人通りの少ない屋敷続きの登り坂へかかると、誰か一人ぶらさがるように後ろからNさんに抱きついた

ものがある。Nさんは勿論びっくりした。が、その上にも驚いたことには思わずたじたりながら、肩越しに相手をふり返ると、闇の中にもちらりと見えた顔が清太郎と少しも変らないことである。いや、変らないのは顔ばかりではない。五分刈りに刈った頭でも、紺飛白らしい着物でも、ほとんど**清太郎**とそっくりである。

B

おとといも咯血した患者の清太郎が出て来るはずはない。況やそんな

1 真似をしたりするはずはない。

「姐さん、お金をおくれよう。」

8 その少年はやはり抱きついたまま、甘えるようにこう声をかけた。その声もまた不思議にも清太郎の声ではないかと思うくらいである。 **ウ** 気丈なNさんは左の手にしっかり相手の手を抑えながら、「何です、失礼な。あたしはこの屋敷のものですから、そんなことをおしなされると、門番の爺やさん呼びますよ」と言った。

9 けれども相手は相変わらず「お金をおくれよう」を繰り返している。Nさんはじりじり引き戻されながら、もう一度この少年をふり返った。今度もまた相手の目鼻立ちは確かに「はにかみや」の清太郎である。Nさんは急に無気味になり、抑えていた手を緩めずに出来るだけ大きい声を出した。

「爺やさん、来て下さい！」

10 相手はNさんの声と一緒に、抑えられていた手を振りもぎろうとした。同時にまたNさんも左の手を離した。それから相手がよろよろする間に一生懸命に走り出した。

11 Nさんは息を切らせながら、(後になって気がついて見ると、風呂敷に包んだ何斤かの氷をしっかりと胸に当てていたそうである。)野田の家の玄関へ走りこんだ。家の中は勿論ひっそりしている。Nさんは茶の間へ顔を出しながら、 **(3)** **ユウカン**をひろげていた女隠居にちよつと間の悪い思いをした。

「Nさん、あなた、どうなすった？」

12 女隠居はNさんを見ると、ほとんど詰るようこう言った。それは何もけたたましい足音に驚いたためばかりではない。実際またNさんは笑ってはいても、体の震えるのは止まらなかったからである。

「いえ、今その坂へ来ると、いたずらをした人があったものですから、……」

「あなたに？」

「ええ、後ろからかじりついて、『姐さん、お金をおくれよう』って言つて、……」

「ああ、そう言えばこの **(4)** **カイワイ**には小堀とか云う不良少年があつてね、……」

13 すると次の間から声をかけたのはやはり床についている雪さんである。しかもそれはNさんには勿論、女隠居にも意外だったらしい、妙に陰のある言葉だった。

「お母様、少し静かにして頂戴。」

14 Nさんはこう云う雪さんの言葉に軽い **(5)** **ハンカン**——と云うよりもむしろ侮蔑を感じながら、その機会に茶の間を立つて行った。が、清太郎に似た不良少年の顔は未だに目の前に残っている。いや、不

良少年の顔ではない。ただどこか **エ** 輪郭のぼやけた清太郎自身の顔である。

15 五分ばかりたつた後、Nさんはまた濡れ縁をまわり、離れへ氷嚢を運んで行った。清太郎はそこにいるかも知れない、少なくとも死んでいるのではないか？——そんな気もNさんにはしないではなかった。が、離れへ行って見ると、清太郎は薄暗い **オ** 電燈の下に静かにひとり眠っている。顔もまた相変わらず透きとおるように白い。ちょうど庭に一杯に伸びた木賊の影の映っているように。

「氷嚢をお取り換え致しましょう。」

16 Nさんはこう言いかけながら、後ろが気になってならなかった。

×

×

×

17 僕はこの話の終わった時、Nさんの顔を眺めたまま多少悪意のある言葉を出した。

「清太郎？——ですね。あなたはその人が好きだったんでしょう？」

「ええ、好きでございました。」

18 Nさんは僕の予想したよりも遙かにさっぱりと返事をした。

〔芥川龍之介全集6〕「筑摩書房」による。ただし、出題に際して

表記・表現を一部変更した部分がある

※木賊…湿地に生えるシダ植物の一種で、茎が固いことから木工製品などを研ぐのに用いられる。

※胡麻竹…竹の一種。表面の黒い粒々が胡麻のように見えることから胡麻竹と言われている。

※濡れ縁…雨ざらしになってしまふ外側の縁側のこと。室内にある園側ではなく、家の外にあるため、雨が降れば濡れてしまうことになるため濡れ縁と呼ぶ。

問一 文中の(1)～(5)のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 文中のア～オの読みをひらがなで書きなさい。

問三 空欄 **A**・**B** に入る接続詞の組み合わせとして、最も適切なものを次の①～④の中から一つ選びなさい。

- | | | | |
|---------|--------|---------|--------|
| ① A むしろ | B やがて | ② A さらに | B そうして |
| ③ A やがて | B それから | ④ A ただ | B しかし |

問四 「春の夜」に描かれる情景は、読者にどのような印象を与えるか。次の①～⑤の中から最も適切なものを選択肢から一つ選びなさい。

- ① 明るく希望に満ちた春の夜の楽しさを感じさせる。
- ② はっきりとした光と影のコントラストが印象的な夜である。
- ③ 静寂に包まれた幻想的で儚い雰囲気醸し出している。

- ④ 風や音が強調され、活気に満ちた夜の様子が描かれている。
- ⑤ 夜の暗さが恐怖や不安を強調し、読者を不安にさせる。

問五

文中の4段目(a)のNさんが野田の家に入った際、「妙に気が滅入る」と感じた主な理由として最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 家全体が薄暗く、静まり返っていたため、不気味な印象を受けたから。
- ② 家族の間に会話が少なく、陰鬱な雰囲気が漂っていたから。
- ③ 家の庭に植えられていた大量の木賊と、姉弟が病気であることが重なり、息苦しさを感じたから。
- ④ 女隠居がNさんに対して冷たい態度をとり、居心地が悪かったから。
- ⑤ 家の中が非常に古びており、暗い過去があると感じたから。

問六

清太郎の性格として最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 内向的でおとなしく、人の言うことには逆らわないが、家族に対しては反抗的だった。
- ② 素直で控えめな性格であり、特にNさんに対しては恥ずかしそうに接していた。
- ③ 活発で快活な性格であり、家族の中でもよく笑う明るい存在だった。
- ④ 気が強く、姉とよく口論をすることがあり、女隠居とも対立していた。
- ⑤ ひょうきんな性格で、よく家族やNさんをからかって楽しんでいた。

問七

文中の7段目(b)のNさんが「清太郎とそっくり」な少年に抱きつかれたときに感じたこととして最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 清太郎の幻を見たのだと感じ、現実感が薄れた。
- ② 清太郎が病気であるにもかかわらず、ここにいることに強い違和感を覚えた。
- ③ 不良少年のいたずらだと思い、ただ驚いただけだった。
- ④ 清太郎が助けを求めているのだと感じ、急いで対応しようとした。
- ⑤ 夢の中にいるような気がして、現実とは思えなかった。

問八

文中の17段目の「僕」はなぜNさんが清太郎を好きだったと思ったのか。あなたの考えを50字以内で書きなさい。

第二問

敬語に関する問題である。次の状況から適切なものを一つ選びなさい。

(1) 目上の人を使う言葉

- ① ご苦労様です。
- ② お疲れ様です。
- ③ ご苦労さん。

(2) 先生やアルバイト先の上司からの依頼に対する返事

- ① 承知しました。
- ② 了解しました。
- ③ 分かりました。

(3) 目上の人に久しぶりに会った場合の挨拶

- ① お久しぶりです。
- ② ご無沙汰しております。
- ③ しばらくぶりです。

(4) 相手を待たせる際の言葉

- ① ちよつと待ってて。
- ② 少々待ってください。
- ③ 少々お待ちいただけますか。

(5) 相手から提案された日程には既に予定が入っていた場合の返事

- ① その日は駄目です。
- ② その日は予定が入っております。
- ③ その日は多忙です。

(6) 電話の相手の声が聞こえにくい時の言葉

- ① 聞こえません。
- ② ちよつと聞き取りにくいです。
- ③ お電話が少々遠いようですが。

第二問 次の四字熟語の読みをひらがなで書き、意味を次の選択肢から一つ選びなさい。

(1) 針小棒大

- ① あてもなくふらふらとさまようこと
- ② 何度も失敗しても諦めないこと
- ③ 心の中で考えていることが伝わること
- ④ 物事を大げさに言うこと

(2) 一挙兩得

- ① 何事もなかったかのように行動すること
- ② 物事が思い通りに進まないこと
- ③ 一つの行動で二つの利益を得ること
- ④ 失敗しても諦めずに挑戦し続けること

(3) 終始一貫

- ① 何度も失敗しながら挑戦すること
- ② 最初から最後まで態度や考えが変わらないこと
- ③ 物事が次々に変化すること
- ④ 途中で諦めてしまうこと

(4) 和洋折衷

- ① 和風と洋風の要素を取り入れて組み合わせること
- ② 日本の伝統文化を厳格に守ること
- ③ 外国の文化をそのまま受け入れること
- ④ 日本文化と外国文化を完全に分けること

第四問 次のカタカナに当てはまる漢字を書きなさい。

- ① セスジを伸ばす。
- ② あわてずサワがず冷静に対処する。
- ③ 海水の塩分のノウドを測る。
- ④ 人のシンゾウの働きについて学ぶ。
- ⑤ ビニール製のトウメイな傘を差す。
- ⑥ 新成人のカドデを祝福する。
- ⑦ シガイセンの強い季節になった。
- ⑧ 栄養のカタヨらない食事を心がける。
- ⑨ 医師は微細なビヨウヘンを見逃さなかった。
- ⑩ 指定されたザセギに案内する。

評点

第一問

問八の解答例

模範解答例 1..

Nさんが清太郎の話を生き生きと語り、特別な思いを持っているように見えたため。また、返答が迷いなく率直だったため。(50字)

模範解答例 2..

Nさんが清太郎について詳しく語り、その回想に感情がこもっていたことから、単なる知人以上の特別な感情を抱いていたと感じた。(50字)

模範解答例 3..

Nさんが清太郎に対する思いを話すとき、ためらいがなく率直に答えたことから、かつて深い好意を持っていたと「僕」は推測した。(50字)

模範解答例 4..

Nさんの話しぶりから、清太郎に対する思い入れが強く感じられたため。「僕」はその雰囲気から、特別な感情があったと考えた。(50字)

模範解答例 5..

Nさんが清太郎の話を詳しく語り、その様子に特別な感情が込められていたと感じたため。またNさんの反応から清太郎への思い入れが伝わったから。(50字)